

東海国立大学機構

大学文書資料室ニュース

Tokai National Higher Education and Research System
University Archives News

第40号 2023. 3

目次 Contents

アーカイブズに関する両大学の連携に向けて（堀田慎一郎）	2
杉山新総長の講義が行われました	3
名古屋市立大学大学史資料館（館長 阪井芳貴）	4
令和3年度に大学文書資料室が受け入れた資料	6
対面でのホームカミングデーで2つの企画を行いました	7
資料室日誌（抄）	8
名大史をつむぐ資料を本室に！	10



名古屋市立大学滝子キャンパスに残る昭和2年行幸記念石柱（左）



とその行幸で第八高等学校生徒を親閲する昭和天皇（右）

アーカイブズに関する両大学の連携に向けて

大学文書資料室 堀田 慎一郎

東海国立大学機構の発足から3年

令和2（2020）年4月1日に国立大学法人東海国立大学機構（以下、機構）が発足し、名古屋大学（以下、名大）と岐阜大学（以下、岐阜大）が経営統合してから3年が過ぎようとしています。

機構の発足と同時に、大学文書資料室（以下、本室）は機構本部に直属する運営支援組織となり、岐阜大から歴史公文書の移管をうける施設になりました。ただ、本室の書庫にはそれだけの余裕がなく、事務組織での保存期間が満了した岐阜大の歴史公文書は、引き続き事務組織で管理することになりました。温湿度管理等が行われていない事務組織の書庫は、歴史資料の長期保存には問題があり、あくまでも暫定的な措置です。

機構発足後2年間の本室は、前号で詳しく報じた『名古屋大学の歴史』の刊行で手一杯の状況で、しかも感染症の流行もあって、機構の設置を活かした岐阜大とのアーカイブズに関する連携事業にはなかなか手が付けられませんでした。ようやく動き出すことができたのは、令和4年度に入ってからです。

岐阜大学の「学術アーカイブズ」

大学アーカイブズを、その大学の歴史に関わる資料を収集・保存・公開し、さらにそれらを活用してその大学の歴史を研究し、学内外にアピールするなどの活動を行う施設とするならば、機構発足前の岐阜大には大学アーカイブズはありませんでした。

岐阜大でも、例えば全学的な記念誌としては、『岐阜大学の五十年』（平成11年）や『岐阜大学の七十年』（令和元年）といった100頁前後のものが刊行されています。また令和元年には、創立70周年記念事業として、「学術アーカイブズ」が設立されました。

この学術アーカイブズは、岐阜大のキャンパス各所に点在する歴史的資料・学術資料を永続的に保管するとともに、その活用を進めるためのものです。各部署の特色ある資料関連施設を「アーカイブ・サテライト」と位置付け、全学協働の文化芸術活動を展開します。そして図書館内に「アーカイブ・コア」を設置しました。これは、保存措置が特に必要な資料を保存する書庫およびそれらの展示コーナー（プラエテル）と、大学史・学部、研究の紹介コーナー（フトゥールム）から成っています。

学術アーカイブズには、大学の沿革史に関わる資料も含まれていますが、むしろそうではないものの方

が圧倒的に多いと思われます。全学的な博物館を持たない岐阜大が、大学全体を博物館として位置づけようという構想で、博物館とアーカイブズ（文書館）の機能を融合させたような印象です。



アーカイブ・コアの特別収蔵室

当面の課題と対応

本室では、令和4年度から、機構総務部総務課（同年度から両大学の教学部門を除く本部事務組織を機構事務局に統合）や学術アーカイブズの関係者と、アーカイブズ（大学史に直接関わらないものも含む）に関する情報・意見交換を重ねました。また、総務課が岐阜大全体を対象とする歴史公文書等の所在調査を行いました。その結果、まだ学術アーカイブズや総務課が把握していない、あるいは把握はしていても十分な整理が行われていない歴史資料が数多く存在することが分かりました。まずは、それを正確に把握する作業を進めることになりました。

もう1つの課題は、岐阜大と名大は同じ機構内とはいえ、両キャンパスには地理的な距離があり、特にアーカイブズの現物を取り扱う業務においては、リモートワーク等は難しいことです。岐阜大のアーカイブズを専従で取り扱うスタッフが必要です。そこで、専門職の検討も行いましたが、まずは令和5年1月から、岐阜大でアーカイブズの所在確認と目録作成を行う事務補佐員を置くことになりました。

両大学のアーカイブズのあり方や考え方の違いもあり、前途遼遠ではありますが、少しずつでも課題を解決していきたいと考えています。

資料室だより①

○全学教育科目「名古屋大学の歴史」で 杉山新総長の講義が行われました

大学文書資料室では、令和3（2021）年度まで、名古屋大学史の講義として全学教育科目「名大の歴史をたどる」を開講してきましたが、令和4年度から3つの点で大きく変わりました。

1つは、令和4年度からの大規模なカリキュラム再編により、この講義の全学教育科目内におけるカテゴリーが「全学教養科目」から「現代教養科目」に変わったことです。2つめは、これもカリキュラム再編の影響ですが、主に受講する学生が1年生から2年生になったことです。そして3つめは、講義の名称が「名古屋大学の歴史」に変わると同時に、令和4年3月に刊行された『名古屋大学の歴史 1871～2019』上・下を公式なテキストとして位置づけたことです。これに伴い、同書の執筆者をゲスト講師に迎える回を設けました。なお、ここ2年は資料配布のみのオンライン方式でしたが、令和4年度は対面方式で行いました。

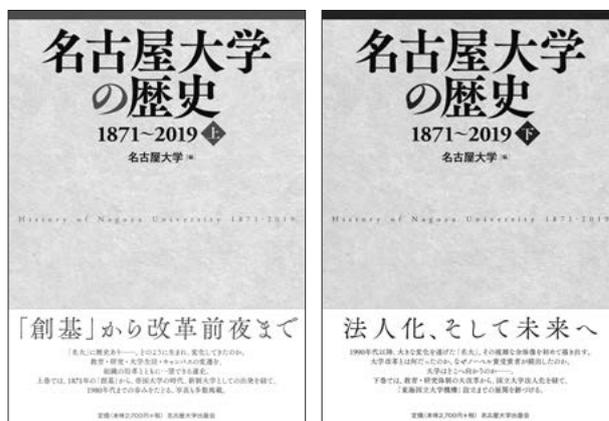
上のような変更はありましたが、名古屋大学総長による講義は例年通り行いました。ただ今回の講義は、令和4年4月に就任したばかりの杉山直総長によるものです。令和4年7月22日、マスクを付けて登壇した杉山総長は、「名古屋大学の挑戦」をテーマに、名古屋大学の歴史から説き起こし、現在の特徴やその将来像を述べたうえで、大学で学ぶべきこと、総長が学生に期待することについて熱心に語りました。

ただ、ここまでは従来と同様でしたが、杉山総長が自らの話は早めに切り上げ、かなりの時間を学生との質疑応答の時間に充てたのは、これまでの総長講義にはなかったことです。学生からの質問を受け付けるだけでなく、総長から質問してどんどん学生を当ていくなど、双方向性を重視したやり方が印象的でした。中には、この機会にと大学への要望を述べる学生もあり、総長が同席の秘書に書き留めておくよう命じる一幕もありました。

この総長講義の様子は、ウェブサイト「NUOCW（名大の授業）」（<https://ocw.nagoya-u.jp/>）から、学内外問わず誰でも視聴することができますようになっています。



講義を行う杉山直総長



テキストの『名古屋大学の歴史』。上・下各3,000円（税込）、書店のほか、各ネット通販でも購入可。

東海地区の大学アーカイブズ⑥

名古屋市立大学大学史資料館

名古屋市立大学大学史資料館 館長 阪井 芳貴

はじめに

名古屋市立大学は、昭和25（1949）年4月に、名古屋市立女子高等医学専門学校を前身とする名古屋女子医科大学と、名古屋薬学校を前身とする名古屋薬科大学を統合し開学しました。その後、名古屋市立保育短期大学、名古屋市立女子短期大学を統合し、現在では7学部7研究科を持つ総合大学となりました。令和5（2023）年度には、名古屋市立中央看護専門学校の看護学部への統合や、データサイエンス学部の開設を予定しています。

また、令和3（2021）年に名古屋市立東部・西部医療センターが本学の医学部附属病院となり、令和5（2023）年4月には、名古屋市立緑市民病院と名古屋市厚生院附属病院の本学医学部附属病院化を予定しており、規模を拡充してまいります。

名古屋市立大学大学史資料館（以下、本資料館）は、前身校から続く本学の歴史に関する資料を収集・保管・調査しその成果を展示という形で発信すべく、令和2（2020）年に、名古屋市立大学開学70周年記念事業の一環として、本学滝子キャンパス学生会館2階に開館しました。

展示室

本資料館では、展示室を以下の6つのコーナーに分け、本学にまつわる資料を展示しています。

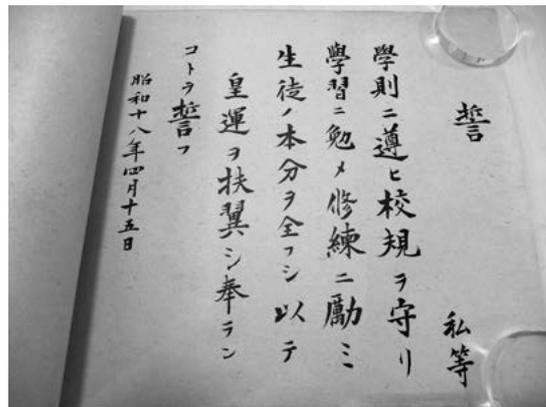
- ① 名古屋市立大学の沿革
- ② 初代学長－戸谷銀三郎－
- ③ 八高古墳
- ④ 学生生活の歩み
- ⑤ 国際交流
- ⑥ 特集展示

展示資料を一部紹介します。①名古屋市立大学の沿革のコーナーには、「名古屋市立女子高等医学専門学校入学生『誓』」が展示されています。

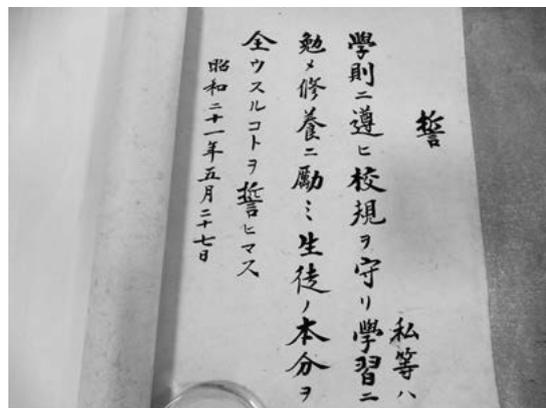


名古屋市立女子高等医学専門学校入学生『誓』

こちらは、名古屋市立大学医学部の前身である、名古屋市立女子高等医学専門学校由来の史料です。同校は、戦時中の医師不足に対応するため、昭和18（1943）年に開校しました。『誓』は学生たちが入学にあたり、学則・校規に従って学習に努めることを誓い、順次氏名を自署した巻物です。巻頭の宣誓文は、戦前の昭和18年の卷子と戦後の昭和21年の卷子では異なっており、戦前は「學則ニ遵ヒ校規ヲ守リ學習ニ勉メ修練ニ勵ミ生徒ノ本分ヲ全フシ以テ皇運ヲ扶翼シ奉ランコトヲ誓フ」という教育勅語に基づいた宣誓でしたが、戦後には「學則ニ遵ヒ校規ヲ守リ學習ニ勉メ修養ニ勵ミ生徒ノ本分ヲ全ウスルコトヲ誓ヒマス」という宣誓へと変化しており、戦前・戦後における教育政策の転換を感じ取ることができる貴重な資料となっています。



戦前（昭和18年）の『誓』



戦後（昭和21年）の『誓』

また、本資料館展示室の南には、八高古墳と呼称される4世紀後期頃に築造されたとみられる前方後円

墳が現存しています。名前の由来は、この古墳が存する滝子キャンパスにはもともと、旧制第八高等学校（現名古屋大学）があったことから八高古墳と名づけられました。平成元（1989）年に名古屋市教育委員会が発掘調査を行った結果、鱗付円筒埴輪、家形埴輪、壺形埴輪、蓋形埴輪が発見されました。この調査の際に出土した埴輪片は、本資料館の③八高古墳のコーナーに展示されています。

主な活動

【資料管理】

資料館に寄付・寄贈された資料の整理・管理（目録作成や展示等）

【講演会】

〈名古屋市立大学大学史資料館開館記念シンポジウム〉

令和4年2月、本資料館の開館を記念したシンポジウムを開催しました。コロナ禍により当初の予定より1年遅れでの開催でした。本学の教員が登壇し、以下のテーマで基調講演とパネルディスカッションを実施しました。

○プログラム

・基調講演

「名古屋市立大学大学史資料館の展示と特色」

・パネルディスカッション

「名古屋市立大学70年の歴史と大学史資料館」

〈名古屋市立大学大学史資料館シンポジウム〉

令和5年2月、名古屋市立大学大学史資料館シンポジウムを開催しました。学外より講師を招聘し、本学教員とともにご登壇いただき、以下のテーマで基調講演とパネルディスカッションを実施しました。

○プログラム

・基調講演

「過去・現在・未来をつなぐ大学アーカイブズ」

・パネルディスカッション

「名古屋市の教育史と大学史資料館」

【広報誌】

令和4年3月、広報誌「NCU Histreet（エヌシーユーヒストリート）」を創刊しました。広報誌の名称は、本資料館へ親しみを持ってもらえるようにNCUは本学の英語表記 NAGOYA CITY UNIVERSITY の頭文字からとり、Histreet は、「歴史＝ヒストリー」と「気軽に立ち寄れる通りおよび名市大の将来につながる道＝ストリート」を組み合わせて名付けました。年1回、3月に発行しており、展示品の紹介や大学史資料館の活動報告などを掲載しています。

【授業と連携した大学史資料館の見学】

令和4年5月に、授業の一環として、学生が大学史資料館を見学し、レポートを作成するという連携事業を行いました。

今後の課題

本資料館は、令和4年10月に開館3年目を迎えましたが、多くの課題を抱えています。

1つ目は、資料館運営にかかる職員体制にあります。現在は大学の事務職員が運営を行っていますが、収集された資料の調査・整理・公開など、専門性が求められる業務を思うように進めることができず、専門性を有する職員（専任の教員や学芸員など）の必要性を感じています。

2つ目は、資料館のスペースの問題です。すでに資料の保管場所はスペースが枯渇しているため、新たに寄贈された資料の保管場所を確保することが難しく、加えて防湿機能も不十分なため貴重な資料の保管に苦慮しています。

さらに、広報活動や企画展示、所蔵資料の活用方法の模索など、本資料館の持続可能な充実した活動のためには、これらの問題の解決は必須であると考えています。



名古屋市立大学大学史資料館看板



名古屋市立大学大学史資料館展示室

資料室だより②

○令和3年度に大学文書資料室が受け入れた資料

大学文書資料室では、令和3（2021）年度において、下表の通り特定歴史公文書等418点、歴史資料等940点、合わせて1,358点の資料を、識別番号を付した所蔵資料として正式に受け入れ、目録情報をオンライン資料検索システムにアップロードしました。

特定歴史公文書等とは、公文書管理法に基づき、主に名古屋大学（以下、名大）の組織から移管された法人文書等です。令和2年度の事務組織からの移管点数と比較すると、285点減っています。これは、令和2年度には複数年度分をまとめて移管した数が多かったため（これは本来望ましくないことですが）、単年度に移管される数としては、令和3年度が平均的かと思います。岐阜大学で保存期間が満了した法人文書は、大学文書資料室での受け入れ準備（書庫など）が整っていないため、歴史公文書等に該当するものを廃棄しないようチェックし、当面は各事務組織の書庫で保管することにしています。

なお、令和4年度から、本部における教学部門を除く名大と岐阜大の事務組織が、東海国立大学機構の事務局に一元化されましたが、下表では令和3年度末の組織名を記しています。

歴史資料等とは、これも公文書管理法に基づきしかるべき管理が義務づけられている、特定歴史公文書等以外の歴史資料を指します。令和2年度に比べると、2,000点以上減っています。名大が作成した刊行物・印刷物（下表における「名古屋大学（本部）」及び「名古屋大学（部局）」）は、当該年度のものを次年度には登録するため、毎年度ほぼ一定です。ただ、大学以外の団体・個人からの受け入れ資料については、大規模な資料群の整理が年度内に終わらなかったり、目録を作成しても諸事情により公表しない資料群があったためです。

特定歴史公文書等

移管・寄贈元（令和3年度末現在の名称）	点数
管理部総務課（機構総務部）	49
管理部財務課（機構経営企画部財務一課）	5
研究協力部（機構研究戦略部）	56
管理部企画課（機構経営企画部経営企画課）	23
教育推進部（機構教育戦略部）	46
情報推進部（機構情報推進部）	10
管理部施設課（機構施設統括部）	17
監査室	2
Development Office	8
附属図書館事務部（機構図書館事務部）	19
文系事務部	24
理学部・理学研究科・多元数理科学研究科事務部	19
医学部・医学系研究科事務部	94
工学部・工学研究科事務部	14
農学部・生命農学研究科事務部	18
環境学研究科事務部	1
研究所事務部	12
総合保健体育科学センター事務室	1
合計	418

歴史資料等

提供・寄贈元	点数
名古屋大学（本部）	225
名古屋大学（部局）	346
東海国立大学機構	13
名古屋大学関係団体等	85
アーカイブズ機関・博物館	156
大学・研究機関等	40
個人	57
学外その他	16
書店・古書店（購入）	2
合計	940

資料室だより③

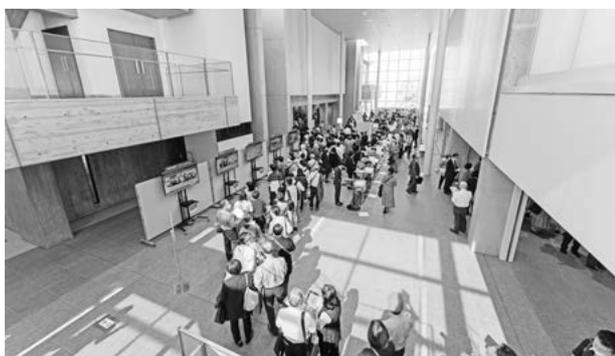
○3年ぶりの対面でのホームカミングデーで 2つの企画を行いました

大学文書資料室（以下、本室）は、令和4（2022）年10月15日（土）に開催された第18回名古屋大学ホームカミングデー（以下、HCD）において、①「『名古屋大学の歴史』出版記念写真展」と②「スライドショー 写真で見るあの頃の名大」の2つの企画を実施しました。

令和4年度のHCDは、対面とオンラインの併用（ハイブリッド）方式で行われました。感染症の影響でオンラインのみの開催を余儀なくされていたHCDが対面で実施されるのは、実に3年ぶりのことです。本室では、①は対面方式のみ、②はハイブリッド方式で行いました。いずれも展示会場は豊田講堂のホワイエです。

①は、名古屋大学編『名古屋大学の歴史 1971～2019』上・下（詳しくは前号参照）が令和4年3月に刊行されたことを記念し、これに掲載された写真をカラーパネルにして展示しました。パネルは、同書を出版した名古屋大学出版会の提供によるものです。②は、HCDのメインイベント「名古屋大学の集い」に特に招待される、卒業後50周年、40周年、30周年、20周年、10周年の卒業生それぞれの在学期間中の35枚ほどの写真をピックアップし、5本のスライドショーにまとめたもので、恒例の好評企画です。前年に比べると対象とする期間が1年ずれるため、写真の半分以上を入れ替えました。②は、現在でも本室のウェブサイトで視聴することができます。

今回は、豊田講堂ホールで行われる「名古屋大学の集い」に際しての感染症対策のため、ホワイエが入場者の健康チェックの会場にもなっていました。また、ホワイエでの企画は本室のみであったため、とりわけ多くの方々に展示を見ていただけました。



「名古屋大学の集い」開始前の豊田講堂ホワイエ



「名古屋大学の集い」の健康チェックに並ぶ人々



「名古屋大学の歴史」出版記念写真展を観覧する人々



スライドショーを観覧する人々

資料室日誌（抄） 令和4（2022）年2月～令和5（2023）年1月

- 2月8日 名古屋大学出版会と『名古屋大学の歴史』の出版契約書について協議（吉川卓治部門長・福地実法規係専門員・堀田慎一郎室員）。
- 2月9日 附属図書館情報サービス課から法人文書移管。
- 2月14日 岡崎恒子特別教授室の資料を検分し、その処遇について理学研究科等と協議（堀田室員）。
教育推進部基盤運営課から法人文書移管。
- 2月16日 附属図書館東山地区図書課から法人文書移管。
- 2月24日 教育学部附属学校から法人文書移管。
- 3月3日 管理部財務課から法人文書移管。
- 3月8日 堀田室員がホームカミングデイ実行委員会に出席（以降、4月12日、5月16日、11月8日にも出席）。
- 3月15日 事務補佐員候補者（一般公募）面接（吉川部門長・武内松二総務部次長・堀田室員）。
- 3月16日 令和3年度に受け入れた資料の書庫配架作業（古賀恭代室員など）。
附属図書館東山地区図書課から法人文書移管。
- 3月23日 大学文書資料室（以下、本室）室会議を対面で開催（以降、4月20日、7月20日、11月16日、1月11日に開催）。
※構成メンバーは、高橋宏治室長（理事・事務局長）、宮川勉部門長（総務部長）、吉川部門長、福地専門員、兵澤隆博総務課係長（岐阜大学）、池田有紀総務課主任（岐阜大学、7月以降松山和弘係員）、堀田室員、古賀室員。そのほか、必要に応じて総務部総務課から職員同席。
- 3月24日 旧制八高・名経専卒業生旧蔵資料を検分のうえ受贈（堀田室員など、名古屋市東区）。
情報学部・情報学研究科から法人文書移管。
- 3月31日 『東海国立大学機構大学文書資料室紀要』第30号、『東海国立大学機構大学文書資料室ニュース』第39号を刊行。
名古屋大学編『名古屋大学の歴史 1871～2019』上・下が名古屋大学出版会から刊行される。
- 東岡達也事務補佐員、魚住奈都子事務補佐員が退職。
工学部・工学研究科教務課から法人文書移管。
- 4月1日 「名大歴史写真館」に関する打合せ（武田一哉副総長・神野悦太郎（株）Hashup 社長・堀田室員）（以降、5月19日、6月17日、9月2日、11月17日、12月2日）。
- 4月19日 総務部人事労務課から法人文書移管。
- 4月20日 事務補佐員候補者（一般公募）面接（吉川部門長・河口正樹総務課長・堀田室員）。
- 5月2日 山田三香子事務補佐員が着任。
- 5月6日 呉昇鍵事務補佐員が着任。
- 5月10日 紀要31号の投稿募集を告示。
- 5月18日 情報学部・情報学研究科から法人文書移管（5月20日にも）。
- 6月2日 辜傲然事務補佐員が着任。
農学国際教育研究センターから資料を移管。
『名古屋大学の歴史』、紀要、ニュースレターを学外に発送（岡田智行事務補佐員）。
工学部・工学研究科教務課から法人文書移管。
- 6月7日 教育推進部教育企画課から法人文書移管。
- 6月9日 統括文書管理者から機構本部及び名大事務組織に「令和3年度末で保存期間が満了した法人文書ファイル等の移管及び廃棄の作業について（依頼）」を通知（法規担当）。
全国公文書館長会議及び関連行事に堀田室員が出席（オンライン）（～10日）。
教育学部附属学校から法人文書移管。
- 6月13日 情報環境部、アイソトープ総合センターから法人文書移管。
- 6月14日 附属図書館情報サービス課から法人文書移管。
- 6月16日 堀田室員が岐阜大学アーカイブ・コアを視察、岐阜大学の関係者とアーカイブズに関する連携について意見交換。
- 6月20日 「令和3年度に作成された印刷物の提供について」の依頼を機構本部及び名大事務組織に通知（古賀室員）。

- 教育推進部学生支援課から法人文書移管。
- 6月24日 キタン会から八雲会館事務所の保存資料を受贈。
- 6月28日 医学部・医学系研究科大幸地区事務統括室から法人文書移管。
- 7月5日 理学部・理学研究科・多元数理科学研究科、附属図書館情報サービス課から法人文書移管。
- 7月8日 総務部とアーカイブズに関わる専門職について意見交換（堀田室員）。
財務部財務課・教育推進部教育企画課（博士課程教育関係）から法人文書移管。
- 7月11日 附属図書館東山地区図書課から法人文書移管。
- 7月13日 教育推進部学生交流課から法人文書移管。
- 7月22日 全学教育科目「名古屋大学の歴史」で杉山直総長が講義（本号3頁参照）。
監査室から法人文書移管。
第1共同利用施設102・103書庫のエアコン修理工事。
- 7月25日 研究所総務課から法人文書移管。
- 7月27日 研究協力部から法人文書移管。
- 8月5日 教養教育院事務室から法人文書移管。
- 8月9日 附属図書館情報管理課から法人文書移管。
- 8月10日 DO室から法人文書移管。
- 8月22日～26日 山田事務補佐員が国立公文書館の「アーカイブズ研修I」を受講（オンライン）。
- 8月30日 内閣府に「令和3年度特定歴史公文書等の保存及び利用の状況報告」を提出（古賀室員）。
- 8月31日 総務部総務課から法人文書移管。
- 9月16日 農学部・生命農学研究科から法人文書移管。
- 9月28日 第1共同利用施設203書庫エアコン更新工事。
医学部・医学系研究科総務課から法人文書移管。
- 9月29日 文系総務課・経営企画部経営企画課から法人文書移管。
- 10月6日 名誉教授旧蔵資料を検分（西田佐知子博物館准教授・堀田室員、大府市）。
- 10月11日 総合保健体育科学センターから法人文書移管。
- 10月15日 ホームカミングデイにて2つの企画を実施（本号7頁参照）。
- 10月21日 医学部・医学系研究科人事労務課から法人文書移管。
- 11月9日 広報室と名古屋大学の新PR冊子について打ち合わせ（堀田室員）。
- 11月15日 野依記念物質科学研究館の野依良治特別教授室保存資料の取扱いについて打ち合わせ（高橋理事・宮川総務部長・廣岡信行理学研究科事務長・福地専門員・堀田室員）。
文系教務課から法人文書移管。
- 11月16日 野依特別教授室保存資料を検分、中村ゆり子秘書からヒアリング（廣岡事務長・堀田室員）。
環境学研究科から法人文書移管。
- 11月19日 本室所蔵の特定歴史公文書等5点を展示した山梨県立美術館企画展「米倉壽仁展」開催（～2023年1月22日）。
- 11月21日 野依特別教授と資料の整理方針等について打合せ（廣岡事務長・堀田室員）。
- 11月28日～12月1日 施設統括部設備課から法人文書移管。
- 12月15日 野依特別教授室保存資料を調査（堀田室員）。
名古屋大学卒業生（元工学部准教授）から資料を受贈（堀田室員）。
- 12月20日 教育推進部基盤運営課から法人文書移管。
- 12月21日 全学教育科目「名古屋大学の歴史」の総長講義をNUOCWで公開。
- 12月23日 「法人文書ファイル管理簿等の更新等について（依頼）」を文書管理者に通知（法規担当）。
- 1月10日 千藤弥生事務補佐員（岐阜大学勤務）着任。
- 1月31日 名古屋市立大学大学史資料館を視察、同館についてヒアリング、2月19日のシンポジウムについて打合せ（堀田室員）。

名古屋大学の卒業生、現役・退職後の教職員の方々へ

名大史をつむぐ資料を本室に！

その他、ご処分予定の資料についても、まずはご一報ください

☆在学時の配布物

(学生便覧、シラバス、試験問題
課外活動の資料…)

☆教育・研究活動、大学・部局運営に
関する資料

(各種書類、会議のメモ、備忘録、
スクラップ記事…)

☆校費による印刷物・刊行物

(冊子、パンフレット、ポスター…)

☆ご退職関係の記念冊子・記念
論集・業績集…

など



大学文書資料室の資料書庫

※ご寄贈資料は、東海国立大学機構大学文書資料室利用等規程などに基づいて、大切に保存・管理・活用させていただきます。とりわけ資料の公開につきましては、寄贈者の意向を優先しつつ、深甚の配慮をいたします。

【連絡先】 東海国立大学機構大学文書資料室（下記参照）

東海国立大学機構大学文書資料室ニュース 第40号

Tokai National Higher Education and Research System University Archives News No. 40

東海国立大学機構大学文書資料室

室長 高橋 宏治 (理事、事務局長)

部門長 吉川 卓治

(名古屋大学史資料・編纂部門、
教育発達科学研究科教授)

部門長 宮川 勉

(歴史公文書部門、総務部長)

室員 堀田 慎一郎 (特任助教、専任)

室員 古賀 恭代

専門員 福地 実 (総務部総務課内法規担当、
係長兼務)

事務員 岡田 智行 / 山田 三香子

千藤 弥生 (岐阜大学勤務)

発行日 2023年3月31日

編集
発行

東海国立大学機構大学文書資料室

名古屋市千種区不老町〒464-8601

電話：(052) 789-2046

FAX：(052) 788-6222

E-mail: nua_office@cc.nagoya-u.ac.jp

印刷

株式会社荒川印刷

名古屋市中区千代田2-16-38